



地域医療連携室だより

患者さんのご紹介について

原則として15歳中学生までのお子さんが対象になります。

神奈川県立こども医療センターは、紹介・予約制で診療をしています。患者さんをご紹介いただく場合は診療情報提供書（紹介状）をご用意ください。原則として15歳中学生までのお子さんが対象です。

ご紹介・ご予約方法について

地域医療連携室宛てに、診療情報提供書（紹介状）を郵送してください。

（画像 CD がある場合は同封してください）

診療情報提供書（紹介状）が到着後、内容を医師が確認し、受診日を設定させていただきます。

受診日が決まりましたら受診連絡票（受診日のお知らせ）を患者さんご家族と紹介元医療機関へ郵送します。

診療情報提供書の書式は自由ですが、専用ハガキもあるのでご利用ください。専用ハガキが必要な場合には、お申し付けいただければ、お送りいたします。



詳しくは、リニューアルしたホームページをご覧ください。

こんにちは 栄養サポートチームです

栄養サポートチーム座長 兼 アレルギー科医師 高増 哲也



みなさん、こんにちは、栄養サポートチーム（Nutrition Support Team : NST）です。発足してから18年目になりました。栄養は、健康を回復・維持するために、その土台となるものです。とりわけ食べることは、毎日の生活の中で、その中心に位置しているともいえます。ですが、医療の現場では、栄養がつつい後回しにされがちでもあるのです。その結果、栄養問題が治療のブレーキになっていたりと、病気の元となっていることすらあります。

わたしたちは、こども医療センターに入院・通院しているこどもたちの栄養が、できるだけ最適な状態となるように、見守りながら時には提案をする活動をしています。入院したら、身長と体重の記録などから、問題がありそうかどうか確認しています。でも実は、数字ばかり見ていては、実際がどうかはわからないものです。まず、病気の種類によって、課題となることは異なります。そこで、重症心身障害がある時、胃瘻からの注入を必要とする時、がんの治療中、心臓の病気がある時、といった事情ごとに、小さなチームをそれぞれ作って、独自に活動をするスタイルをとっています。わたしたちはそれを、栄養プロジェクトチーム（Nutrition Project Team : NPT）と呼んでいます。

感染症の蔓延は、医療界にも大きな影響を及ぼしました。NSTがこれまでスタッフ向けに定期的に講堂で行っていた栄養のセミナーも、開催できなくなりました。ですが大切な情報共有は何としてでも継続したい。そこで病院のウェブサイトからリンクする独自のサイト（<https://kcmc-nst.com/nst/>）を運営し、こどもたちへの10のメッセージの発信を始めました。方言バージョンも作ったところ、全国の方からご当地版も作りたい、と協力の申し出が殺到し、全都道府県版が揃い、さらに外国語版もできました（栄養サポートチームからみなさんへ）。栄養に関わる情報についても、動画を作成してYoutubeで視聴できるようにしました（小児栄養講座）。小児がん栄養の情報も、いつでも見れるようにして、専門のスタッフに質問もできるようになっています（小児がん栄養サロン）。こども医療センターの基本理念、あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせ、を常に振り返りながら、多職種で活動を進めています。



かながわこども医療ネット

（株）富士通 HumanBridge を利用して、こども医療センター電子カルテ情報をインターネット経由で公開する情報共有システム「かながわこども医療ネット」をご利用いただけます。診療に関わる情報をネットワーク上でリアルタイムに共有して、効率的かつ緊密な小児医療提供体制の実現を目指します。



詳しくは、リニューアルしたホームページをご覧ください。

【当センターフォロー中の患者さんの急患受診】

まずは、かかりつけの医療機関、休日急患診療所や夜間急病センター等で受診していただき、必要に応じて**医師から当センター担当医宛に電話でご連絡ください**。医師からの連絡が難しい場合は、患者さんから直接担当医に電話連絡をして下さい。

※ 事前にご連絡をいただけない場合、受診出来ないことがありますので、ご注意ください。

※ 救急外来の診療は担当医ではなく、救急外来担当医が行う場合もあります。



栄養サポートチーム(NST)の皆さんからのお話

薬剤科 薬剤師 加藤 千枝子



NSTにおける薬剤師の役割は薬学の知識を生かした栄養への介入と考えています。薬剤師は日常業務の中で、適応症、アレルギー、投与経路、投与速度、薬剤との配合変化、製剤の安定性などを考え、栄養剤や輸液の適正使用の確認をしています。中心静脈栄養(TPN)では組成が大きく逸脱していないかを確認した上で無菌調製しています。

NSTメンバーとなるとさらに介入の深度を深めます。

患児の現在の栄養状態、病態、疾患特性による必要栄養量と栄養利用能力、治療に使っている薬剤の影響なども考慮します。この段階で必要となってくるのは、他職種からの情報です。薬剤師目線だけからでは見えてこないところに気付かされます。薬剤師は他の医療従事者に比べてまだまだ患児やご家族と接する機会が少なく、他職種からの質問を受けて患児やご家族の困りごとを間接的に知れることもあります。それぞれの専門分野の知識と視点を掛け合わせることでより適切な栄養療法を導き出せます。

ご自宅に戻られてからも栄養管理を必要とされる場合には、継続できることが重要です。栄養状態が悪くなると、薬を正しく服用できていても薬物治療の効果が期待通りに得られなくなる可能性があります。そのため、地域の医療機関や調剤薬局のご協力は必須となります。これまでにも在宅中心静脈栄養法(HPN)に移行される方で調剤薬局の準備が整うまでの間の分を調製して退院時に持ち帰っていただき、その後は調剤薬局にお願いすることもありました。調製方法についての問い合わせにも対応しており、今後も連携を進めていきたいと思っています。

栄養管理科 管理栄養士 福重 亜紀子



こども医療センターでは、入院患者全員を対象に看護師と協働して管理栄養士が栄養のスクリーニングを行い低栄養のリスクがある場合、NSTでの介入を行っています。

NSTで管理栄養士は、必要な栄養量を算出し、実際に摂取している栄養の内容と比較します。ご家族の方に自宅での栄養摂取状況を聞き取り、過不足がないか確認し、口から摂取している場合はベッドサイドで食事を摂取している様子を観察し食べやすい内容や形態になるよう調整を行います。実際のNST回診では肌のかさつきや発疹、爪の状態、髪の色等を見て、微量元素やたんぱく質不足など問題点がどこにあるのか、多職種で話し合っています。また、身長・体重のほかに、体脂肪量の変化や筋肉量を反映するといわれる、上腕の皮下脂肪厚、上腕や足のふくらはぎ周囲を計測し栄養状態の評価を行っています。

「食べること」だけの問題ではないケースも多く、経腸栄養剤の注入のみを長期に行っている場合、栄養素の不足がみられることがあります。その場合には必要な栄養素が補える方法をお伝えしています。

多職種と連携しながら、必要な患者様に、必要な時、適切な栄養介入ができるようなNST活動をこころがけています。

看護局 兼 スキンケア・褥瘡相談室看護師 鈴木 真由子



当センターの栄養サポートチーム(NST)は多くの看護師が所属しています。看護師は他のどの職種よりも子どもと家族の近くにおり、変化を感じることができると考えます。看護師が「最近、痩せたな」「年齢の割には細くて食事量も少ないな」と感じたとき、もちろん主治医の先生にも相談しますが、NSTとのタイムリーな連携によって今後の経過や普段の生活を含んだ広い視野をもって栄養を考えることができ、良い看護につなげることができます。

先日、食べたくても十分に消化できず、長い間苦しんできたお子さんと母親に会いました。大きな手術を受けるためにNSTとともに試行錯誤しながら栄養を強化し、手術を乗り越えた子でした。術後は「悩むことなく好きなものを好きなだけ食べています。体調も崩さなくなったし褥瘡もないんですよ」と素敵な笑顔で話してくれた子と母親には涙が溢れていました。チームで考えても時には答えが出ないことや実践が難しいことがあるかもしれません。それでも子どもや家族に関わり寄り添うことで、栄養がその子どもの人生に大きく影響したのだと感じる瞬間でした。

栄養は子どもや家族の日々の生活とともにありますが、タイムリーに悩みを解決する機会が少ないことと思います。「小児栄養オンラインサロン」など、気軽に話し合うことができる場もありますので、ぜひご活用ください。

理学療法科 理学療法士 長山 美穂



理学療法士は、筋力強化や持久力向上、基本動作練習などの運動療法や、姿勢運動発達の援助を行う専門家であり、当院では、新生児期から学齢期までのお子さんに対応しています。

栄養状態の不良なお子さんの場合、活動量は低下していることが多く、食事量も低下するという悪循環に陥ることがあります。このような状況では、効果的に運動療法を実施することは難しくなります。理学療法士は、その時々々の栄養状態にあわせ、負荷量を調整しながら運動療法を実施し、活動性をあげていく努力をします。同時に、姿勢運動発達の状況や身体能力、活動量などについてNSTに提示することにより、栄養状態の改善に寄与しています。

哺乳・摂食への援助も、理学療法のひとつです。口腔運動機能と姿勢運動発達はリンクしており、哺乳や摂食における困難さの原因がどこにあるかを評価し、援助することで、栄養摂取の手助けを行います。

NSTのプロジェクトの1つであるDST(摂食嚥下チーム)にも参加しており、重症心身障害児・者における呼吸・摂食嚥下機能への対応や、嚥下造影検査にも携わっています。

当院における理学療法士の役割は、多岐にわたります。多職種と情報を共有し、多角的な評価をもとにチームでお子さんを支援する一員として、理学療法士は日々お子さん一人ひとりと向き合っています。